

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒480-1195
愛知県長久手市岩作雁又1番地1
愛知医科大学医学部衛生学講座内
電話 (0561) 62-3580
FAX (0561) 62-3580
発行責任者 柴田 英治

題字 皿井 進筆

巻頭言

ウルトラマン

(一社) 日本労働安全衛生コンサルタント会理事
なごや労働衛生コンサルタント事務所長

山田 琢之



産業医学の基本は予防医学。最も大切な職務の一つは職場巡視だと思っています。

産業医だけではなく、産業看護職を含めた産業保健スタッフに必要な資質は、幅の広く人間的に深い人です。そのためには常に働く人の職場を訪れ、経験を深めてください。健康相談室に閉じこもり、パソコンや健康診断結果だけを見ている人に、働く人は相談をしません。薄い人間だと見抜いています。

残念ながら企業が向いている方向は「一に安全、二に環境、三、四がなくて五に衛生」。この現状を打破するためには、職場を知り、経済を学び、安全や環境にも積極的に係わらなくてはなりません。

職場巡視は、働いている人の職場が快適か、環境が守られているか、作業の方法が正しいか、それらを職場に出向いてチェックすることです。

事業場に行くときには職場に合った姿が望ましい。事務所ならスーツ。建設現場や製造業の工場ではヘルメットを被り、安全靴を履き、作業着を身に着けるのが正装であります。私は作業着姿はコスプレのウルトラマンの心境になれるので、大好きですね。

職場の安全と衛生を守るために「シュワッチ」というわけです。

ウルトラマンは3分で胸のライトが点滅して活躍できなくなりますが、私もその点だけは同じことができました。

高層ビルの建設現場の揺れる鉄骨の上では安全帯を付けていても怖い。顔は笑っていても足はガタガタ震えていました。3分は持ちません。

保護具のマスクは慣れないと大変。夏は暑いし、

なんといっても息苦しい。縁日のお面をかぶってマラソンをしているようです。

このような産業保健スタッフがしり込みする職場にも、毎日たくさんの人たちが働いています。多少足が震え、ヘルメットで頭が蒸れて、生え際が後退する恐怖があっても、産業医は現場に出かけ、白衣よりヘルメット、安全靴、作業着が似合うようになって一人前。がんばらなくては。



会社創立60周年の会



名古屋市交通局
名港工場(地下鉄)
の職場巡視



名古屋市交通局
自動車工場の
職場巡視

開催報告

平成26年度日本産業衛生学会東海地方会学会開催のご報告

三重大学大学院 医学系研究科 公衆衛生・産業医学分野 筈島 茂 (平成26年度学会長)



筈島 茂 学会長

平成26年11月22日(土)に三重大学医学部総合医学教育棟を会場として、伝統ある日本産業衛生学会東海地方会学会を開催させていただきました。三重県および三重労働局のご後援の下、三重県医師会、三重県歯科医師会、および三重県産業保健総合支援センターの皆様と学会を共催いたしました。三重産業医会をはじめとする各方面の関係者の皆様、そして学会員以外の皆様からも多大なるご尽力・ご協力をいただきました。おかげさまで、参加者数143名(会員101名・非会員31名。学部学生11名)、特別講演2題、ミニシンポジウム講演2題、および一般演題16題を得、活発な討論のある充実した学術集会となりました。皆様に心よりお礼申し上げます。



高崎 正子 保健師
(株式会社東芝セミコンダクター&ストレージ)



松田 元先生
(まつだクリニック)

これら2題のご講演をうけて、シンポジウム「立場の相違を越えて産業衛生の共通目標・インパクトを考える」で、佐久間敦敬様(住友電装執行役員人事部長)から「事業所が産業医・産業看護職に望むこと」を、浦上年彦先生(トヨタ自動車本社産業医・ゆうあいクリニック院長)から「事業所の安全衛生担当者に望むこと」をお話し頂きました(座長:柴田英治先生(愛知医大衛生学教授・東海地方会会長))。このシンポジウムでは、指定発言者の高崎正子先生(東芝セミコンダクター&ストレージ社保健師)および松田元先生(まつだクリニック院長)から、それぞれのお立場からのコメントを頂き、会場からの質疑とあわせて活発な意見交換がありました。



特別講演1 内山 真先生



特別講演2 廣 尚典先生

今回の学会のテーマを「見える産業衛生を目指して：産業衛生のインパクト」といたしましたところ、産業衛生に係わる多くの職種や社会的立場からのご発表を得ました。特別講演では、今日の産業衛生に求められる大きな課題の中から精神保健の現状と今後の取り組みについて取り上げさせていただきました。内山真先生(日大精神医学系主任教授)から、「健康づくりのための睡眠指針2014：職域での睡眠の質改善に向けて」と題して、アカデミックな立場からお話し頂きました(座長:筈島茂)。引き続き、廣尚典先生(産業医大精神保健学教授)から、「ストレスチェック義務化(改正安衛法)：その課題と対策」と題して、法改正にかかわられた立場からお話しを頂きました(座長:小林章雄先生(愛知医大衛生学教授))。



一般演題で、衛生関係からは 10 題について 3 座で発表がありました（座長：平工雄介先生（三重大学院環境分子医学）、伊藤由起先生（名市大学院環境保健学）、および、榊原洋子先生（愛教大保健環境センター））。発表されたテーマには次のようなキーワードが取り上げられていました。

- ：殺虫剤、Paraoxonaze1 遺伝子多型、尿中代謝物
（発表者：佐藤博貴（所属・敬称略））
- ：ディーゼル排気ガス、ナノ粒子、肝ペルオキシゾーム
（伊藤由起）
- ：アスベスト、マイクロRNA
（渡辺純）
- ：多層カーボンナノチューブ、細胞内 DNA 損傷
（平工雄介）
- ：廃試薬、トリクロロエチレン、葉傷（榊原洋子）
- ：建築業従事者、石綿肺がん、労災（久永直見）
- ：歯科合金、血清インジウム、KL-6（横山多佳子）
- ：肺内含鉄小体、中皮腫（鈴木隆佳）
- ：カーボンブラック、環境中ナノ粒子（川越隆）
- ：無線 LAN 環境、VDT 症候群（松月正樹）



一方、保健関係からは 6 題について 2 座で発表がありました（座長：松田元先生（まつだクリニック）、尾島俊之先生（浜松医大健康社会医学））。発表されたテーマには次のようなキーワードが取り上げられていました。

- ：インフルエンザ予防接種、費用補助、接種率
（守田祐作）
- ：小規模事業場、メンタルヘルス（斉藤政彦）
- ：高齢就労者、受動喫煙（尾島俊之）
- ：生産工程従事者、うつ病（松田元）
- ：労働時間、K6 スクリーニング尺度（中山裕一）
- ：休憩時間、HRQOL（島田理子）



末尾ながら、重ねて学会に関わって頂きました皆様に深く御礼申し上げますとともに、本学会の現状と、将来へ向けての希望を申し添えさせて頂ければと存じます。本学会の目的は、産業社会で働く人々の健康をまもることにありますが、人々が働く社会のありようは大きく変わりつつあります。このことは、産業衛生の実現のための学の内容も方法も大きな変革期にあることを意味します。本学会では、今後、様々な立場と対話と連携を重ねること、次世代の学会を担う新しい人材を求め育てることが重要です。本年度の学会では幸いなことに、学部学生の参加者の比重が高く、一般演題 16 題中 2 題が学部学生からの発表でした。産業衛生のこれまでの歴史を踏まえつつ新しい情勢の中で自らを変革することによって産業衛生を次世代に継いでいきたいと思います。

産業保健スタッフのための研修会 〈講演1、2の座長を担当して〉

国立大学法人浜松医科大学医学部 地域看護学 巽

あさみ



講演Ⅱの浜松医科大学児童青年期精神医学講座 吉川久史先生（臨床心理学）による「EMDR を用いたトラウマ治療」の座長を担当させていただきました。

トラウマ（または PTSD：心的外傷後ストレス障害）は疫学的には生涯有病率は 100 人に 1 人程度と低いが当事者にとっては PTSD の本質である脅威・無力感・孤立無援感が強いと述べられ、その苦悩が繰り返される辛さを理解することができました。PTSD の心理療法として EMDR（Eye Movement Desensitization and Reprocessing：眼球運動による脱感作と再処理法）について説明され、眼球運動により現在の症状が緩和され、苦痛な記憶からストレスが除去されたり、自己のものの見方が改善され、身体的苦痛から解放されたり気持ちが整理できるようになるという画期的な治療技術であると報告されま



した。職場のいじめによる PTSD 事例の 27 回の面談による快復経過の具体的な説明は、身近に経験する事例だけに大変意義深い内容でした。会場からは、医師・臨床心理士だけが治療者の資格を取得できることから他の職種にも拡大を希望するなど活発な意見や質問があり EMDR に興味関心を持たれた参加者が多かったのではないかと感じました。職場におけるメンタルヘルス不調者では発達障害併存者やうつ病・パニック障害などの背景に PTSD があることは容易に推測されるので今回の治療法は今後のメンタルヘルスケアに大きな可能性が見出せる素晴らしいご講演であったと思いました。

〈講演3、4の座長を担当して〉

愛知県がんセンター中央病院頭頸部外科部歯科診療科

間瀬 純 治



講演Ⅲでは " 個人ばく露の進めかたー産業衛生技術部会によるガイドライン" と題して、東燃ゼネラル石油の橋本晴男先生よりご講演いただきました。個人ばく露は、個人のばく露量と有害性の度合い、ばく露量の限界値により評価可能であることが示されました。

ガイドラインは、作業場の事前調査ー測定ーばく露低減措置ーフォローアップを含む健康リスクアセスメントで、法定の作業環境測定と比較して測定担当者の裁量の余地が広いことで、リスクに基づく合理的な化学物質管理が可能であり、労働衛生管理の発展を通して社会的好循環を生じることが示されました。本ガイドラインは産衛誌 2015 年 3 月号への掲載が報告されました。

講演Ⅳでは " 生活習慣と口腔がん " とのテーマで、岡崎市民病院歯科口腔外科の長尾徹先生よりご講演い



ただきました。口腔・咽頭がんの多くは喫煙や過度の飲酒が原因とされ、嗜好だけでなく生活習慣全体の評価が重要であり、禁煙支援やアルコール依存症対策、食生活など個別介入による発症リスク減少が重要であると示されました。口腔癌の二次予防である早期発見に、職域での歯科口腔検診や個別検診に加えて自分で見つけ出す方法が示されました。口内炎とがんの見分け方が示され、がんは形が乱れており、さわると硬さがあることが示されました。また、がんが小さなうちは痛みが少ない点は意外でした。産業保健で扱う習慣と口腔がんとの関連を改めて認識しました。

〈シンポジウムを担当して〉

ブラザー工業株式会社 山本美幸



「大人の発達障害の支援」をテーマに、3名の先生方にご登壇いただきました。

大高一則先生（大高クリニック）からは、大人の発達障害を取り巻く課題と支援の方法について、特に、発達凸凹（非定型発達）と発達障害（不適応あり）とを分けて考え、支援の際は障害者の特性を理解して社会での生活援助から始めることをお話しいただきました。貝谷克巳先生（障害者就労支援センターめいり）からは、就労支援に関わる立場から、障害者就労支援制度では、就職支援が中心になっているため、就職後の継続的な支援が課題であることをお話しいただきました。杉本日出子先生（株式会社ジェイテクト）からは、企業の立場から、障害を持つ方が職場復帰する際に、自分の仕事上の問題を記した「私の説明書」を上司に提示して理解を求めた事例などをご紹介いただきました。



特に印象に残ったのは障害者の特性をマイナスとしてではなく、プラスの側面から捉えて理解するということでした。また、発達障害者の特性を職場に理解してもらえた結果、その方が職場になくはならない存在になっている事例でした。これらのことから、発達障害と思われる方の対応については、職場の上司や同僚と一緒にあって、「多様性を認める」という姿勢で、根気強く関わっていくことが大切だと感じました。

最後になりましたが、お忙しい中お越しいただいた先生方、参加者の皆様、座長の寺澤先生に深く感謝いたします。

第87回職場ストレス研究会のご報告

トヨタ自動車株式会社 松浦恵美



平成27年3月18日（水）に開催された第87回職場ストレス研究会「ストレス研究における質的研究」に参加させていただきました。

今回は質的研究がテーマでした。最初に、浜松医科大学医学部地域看護学講座の巽あさみ先生より質的研究の概略について発表があり、質的研究の特徴や研究デザイン等について、たいへんわかりやすく解説していただきました。次に、愛知医科大学医学部衛生学講座の小林章雄先生より、メンタルヘルスにおける職場復帰に関する質的研究についての文献紹介と、将来の質的研究についてのご提案をいただきました。最後に、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた質的研究の一例として、私の看護学研究科博士前期課程における「生活習慣病を有する男性労働者の健康観と健康に関する行動の変

遷」の報告と、「労働者のメンタルヘルス不調による休職と職場復帰の経験」についての構想を発表させていただきました。

その後、全体討論として質的研究についてディスカッションが行われ、出席された先生方から多くの質問やご提案をいただきました。

看護学分野では、近年質的研究が活発に行われるようになっていきます。質的研究は「現象を言語化・文章化し解釈して概念化する」という科学的研究方法ですが、量的研究と比較して、産業衛生分野全体においてはまだまだ多く取り入れられているわけではありません。産業保健活動の対象は働く人々であり、数量化しきれない人間のありのままの姿や現象をあらゆる質的研究は、とても興味深く、意義もあると考えます。今年度より㈱名古屋銀行から現職に変わりましたが、できる範囲で研究に取り組みたいと思っています。

会員の声

入会のご挨拶



この度、日本産業衛生学会・東海地方会へ入会しました、小澤と申します。

大学卒業後、愛知県内の大学病院で病棟看護師として勤務したのち、昨年秋より今の会社へ入社しました。学生の頃から予防活動に興味があり、前職では患者さんとの関わりを通して一次予防の大切さを感じ、保健師として労働者の健康支援をしたいと思い、産業保健の分野へ進みました。

弊社はワイヤーハーネスと呼ばれる組電線（人体でたとえると血管や神経と同じ機能を担う、車の生命線ともいえる部品）を開発・製造し、主に自動車メーカーへ販売しています。私が勤務する鈴鹿製作所の管轄地区は約3,000名の従業員がおり、工場の現場で働く人や開発・研究をする人、18歳の新入社員から65歳までのシニアスタッフと幅広い方々がいます。また、2017年

住友電装株式会社 鈴鹿製作所 小澤 桃子

に創業100周年を迎える歴史ある企業でもあります。

産業保健師として働き始めて半年が経ち、わからないこともまだ多くあるのですが、産業医や先輩保健師を始め、皆様のご指導のおかげで少しずつ前進しているように思います。

面談では、従業員の方から話を聞き、その人の健康のために何をするのかを考えることに、面白さを感じると共に、計画通りにならない難しさを感じています。一緒に悩みながら、少しでも力になればと思っています。

また、企業では安全部門や衛生推進責任者や総務人事部など、医療職以外との連携が必須であり、コミュニケーションの大切さも実感しています。健康に関する活動や行事を協力して実施し、会社全体の健康増進を図っていきたいです。

今後、研修会や学会を通して新たな知見を学び、産業保健活動に結び付けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

入会のご挨拶



この度、2014年度下期より、日本産業衛生学会東海地方会へ入会させて頂きました、尾土井悠（おどいはるか）と申します。この場をお借りし、ご挨拶させて頂きま

す。産業医科大学を平成20年に卒業し、厚生連広島総合病院、産業医科大学産業医実務研修センター、旭化成株式会社守山支社を経て、現職に至っております。

異動後半年経ち思う事としては、社内異動で、産業保健活動で用いる基本となるシステムなどは同一の物を活用しているのですが、多数の製造品目のある製造拠点としての守山支社と、グループ内の研究拠点の中心としての富士支社とでは、産業保健職の業務への携わり方も大きく違うように感じます。第

旭化成株式会社 富士支社 健康管理センター 尾土井 悠

12次労働災害防止計画では、化学物質対策が一つの柱として掲げられております。本寄稿執筆最中の現在、春の定期健診、特殊健診の準備期間中ということもあり、少量多種の化学物質が用いられる研究拠点での化学物質管理にどう携わるかを一つの課題と感じています。今までの弊センターの活動視点に別の視点を加え、職場を見ることで、一層、安全な職場づくりを行うことのお手伝いが出来ればと思い、準備を進めております。そうした意味で、同じ社内にながら、日々、実務の中に新鮮味を感じながら、併せて、学びと成長の機会と捉えております。

東海地区は他社様の拠点も非常に多い地区であると同時に、以前より、産業保健職の方々の交流が密な地域という印象を持っておりました。諸先輩方のご指導・ご鞭撻を賜りながら、富士の地で産業保健活動に邁進して行ければと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

近況報告・鉄ちゃんとともに「よい製品は健康な社員から」

日本車輛製造(株) 川崎 ゆりか



私は、新幹線や電車の車両を主に作る会社の保健師です。

入社当初は保健指導をしても鉄道のことがわからないと会話が続き、鉄ちゃんの多い社員に受け入れてもらうには鉄子になることも仕事のうちかと思ったほどでした。また、保健師は会社で一人職種だったため、社員のニーズをどう掴んでどう展開していけばいいのか常に手さぐりの状態でした。産業と言っても業種、規模はさまざまで、同じような製造業で働く同職種の経験者と知り合える機会も少なく相談できる先も限られていたように思います。そんな時学会に入会し研修会に参加することで、近隣企業の先輩方から参考となる事例などを学ばせていただき感謝しております。製造業では現場の安全対策が最優先であり、当社では衛

生や保健対策が遅れがちな面もありました。以前は、鉄道が好きで鉄道に携わる仕事に就いている人がメンタルで不調になることはそうないのでは、と言われたこともありましたが、最近はいずれも同じメンタルヘルスの問題が増加し、対応に苦慮しています。日々鉄ちゃんとともに悩み、困っている保健師ですが、「よい製品は健康な社員から」をモットーに業務に励んでいきたいと思っています。

地方会の皆様どうぞよろしくお願い致します。



作業環境測定をしながら思うこと

株式会社富士清空工業所 奥田 篤史



私は、2013年度に本学会に入会させていただきました。本学会は医学系、看護系、技術系と扱う分野が広く、その守備範囲の広さにいまだに驚いております。

さて、弊社は作業環境測定機関として印刷、塗装、染色、砕石、鉄鋼、金属加工などの事業所へお伺いしています。事業所の規模は大小様々ですが、安全衛生関係を担当するスタッフが幾つか業務を掛け持ちしていることが多く、安全衛生に対する取り組みに十分なエネルギーがかけられないでいる事業所も散見されます。そんな中、2016年6月から化学物質を取り扱う事業所はリスクアセスメントが義務化される運びとなりました。私どもも、折を見てお客様に案内をさせていただいていますが、まだまだ反応が鈍いという状況です。おそらく、担当者が多忙のためリスクアセスメントに関する十分な知識を深められないのではないかと

推察しています。しかし、本学会や他の講習でリスクアセスメントや作業環境改善に関するお話を伺っていると、先駆的に取り組んでおられる事業所が多いことに驚かされます。それと同時に、私達はお客様に、リスクアセスメントや作業環境改善に対するどんなご提案ができるのだろうかと考えさせられます。

私は常々、この仕事は色々な症状を診ていただけの「街のお医者さん」のようだと思っています。街のお医者さんが地域の方々の健康を守るという大事な役割を担っておられるように、弊社の様な「街の測定・分析屋さん」にも大事な役割が幾つかあると考えています。その一つが、お客様に作業環境測定結果の評価、法令改正情報、講習会等で得た情報をわかりやすくご提供し、作業環境改善や、しいては職業性疾病の予防に役立てていただくことです。

これからも本学会や部会で勉強させていただき、お客様の力となれるよう取り組んでまいりたいと思います。

インタビュー

鈴木秀吉先生の産業医学



鈴木秀吉先生は、東海地方会の大先輩だが、東海地方会を離れていた期間も長い。そこで、その間も含めて全体像を伺おうと、2014年の師走も末の27日、時間を割いて頂いた。インタビュー会場は、名鉄百貨店本店9階の左阿彌。聞き手は、柴田英治と久永直見。



鈴木秀吉先生

子どもの頃

1935年に浜松の西伊場町で生まれました。3人兄弟の末っ子です。父の2人の兄が医者で、その1人が子供を“英世”と名付けたので、父は、向こうを張って私の名を“秀吉”にしたのです。私は、よく風邪をひく子でした。小学校2年の時、下校途中で、空襲があり、自宅に避難した学友の級長が粉々になって爆死しました。浜松駅近くでは焼夷弾で多数の死傷者が出ました。そこで、家の裏山に防空壕を掘りました。遠州灘からの艦砲射撃では、被弾して潰れた家で親戚が圧死しました。墓石に当たった大型不発弾に乗って遊ぶ同級生を止めたこともあります。忘れもしない1944年12月7日には、東南海地震があり、家が揺れて倒れそうになるのを目撃しました。その翌年の初夏、私は赤痢に罹りました。腹痛の後、下痢が続き、1ヵ月寝たきりで、もうだめだ

と言われていました。1945年8月14日夜、遠州灘沖に米艦隊がきているとの話で、父母が曳く大八車に乗って天竜川の奥に向かいました。翌日の夕方、横山村の父の実家に着いたら、戦争は終わっていました。爆弾が落ちて来る時のヒュルヒュルという音と恐怖は今も忘れられません。

高校は自宅のそばの浜松西高です。ノーベル賞を受賞した天野浩さんの母校として俄然有名になりました。

医学生時代

1954年に名大に入りました。教養部の頃、映画を見に行ったら、映画の前に上映されるニュースで関西のベンゼン中毒が報じられ、骨髄像が出てきました。これが、労働衛生との初対面です。医学部2年の時には、クラス代表にされ、名古屋駅前で国鉄値上げ反対デモに参加し、3年になったら、学生会長にされてしまい、東京の全学連大会に出て、発言したこともあります。今の若い人は知らないでしょうが、香山健一氏（後年、学習院大教授、保守の論客）が全学連委員長として演壇の奥の中央に座り、発言していました。医学連サマーキャンプというのが毎年夏に開催され、200人位の参加で、鳥取の大山や秋田の十和田湖でありました。名大からは5、6人。東京女子医大生だった瀬木和子さん（現・瀬木学園理事長・愛知みずほ大学教授）も参加していました。

余談ですが、ウィスキーをよく飲み、下宿の床の間にポケ瓶を並べていました。浜松の実家に帰るときも、駅から家までウィスキーを飲みながら歩いたものです。夏に岳麓赤十字病院で実習をしたときは、村での健診の後、ウィスキーで酔い潰れて、注射されたのも知りませんでした。

労働衛生学に入る経緯と最初の研究

卒業は1960年で、インターンは名大分院でしました。当初は、臨床医になるつもりで、まず精神科を訪ねましたが、あまり魅力が感じられませんでした。

た。折しも、当時つきあっていて結婚直前だった妻がバセドー病になり、名大病院に入院しました。そこで、第一内科で内分泌をやろうかと思いました。そんなとき、衛生学の院生だった松下敏夫先生（現・鹿児島大学名誉教授）が、弁当を持って、下宿を訪ねてきました。衛生学に誘われ、半日、話を聞きました。山田信也先生（当時衛生学教室の講師、現・名古屋大学名誉教授）のお話もすでに医局説明会で聞き、好印象を感じていたので、結局衛生学を選びました。疲労に関心があり、精神的な緊張状態を電気生理学的に客観的な事実として把握したいと考えました。

1961年に教室に入ってすぐ、助手になりました。その頃、産衛学会では許容濃度作りが検討されていて、1961年に初めて「許容濃度の勧告」が決定されました。当時、有機溶剤については、ベンゼン中毒からの流れで、許容濃度設定においても、造血器影響に目が向きがちでした。こうしたなか、名大衛生学教室は、神経系影響を重視しており、私は、先に話した自分の関心にも沿うテーマとしてアセトンの自律神経系影響を、ガス曝露室に被験者を入れ、プレチスモグラフやGSRまた脳波を使って追究しました。この研究は、アセトンの許容濃度を500ppmから200ppmに下げる根拠の一つになりました。

教室での研究と並行して、三菱電機産業医の森川利彦先生の下で産業医学の実際を勉強しました。たくさん職場巡視をし、ガラス板に付いた粉じん粒子を数える粉じん測定、職業性腱鞘炎、頸肩腕障害、VDT作業の健康影響、シェルモルド鋳造でのホルムアルデヒドによる皮膚炎、切削油皮膚炎、高温重筋作業における熱中症予防のための水分補給・塩分補給及び冷風・休息条件など高熱職場対策、騒音性難聴、酸欠予防管理、エポキシ樹脂の皮膚障害などを学びました。

福島県立医大に赴任

1973年に福島県立医大の衛生学教室に赴任しました。福島では、有機溶剤の生体作用を、マウスを使って神経行動学的に研究しました。実験装置を自作し、人手も少ない中で大変でしたが、産業中毒学分野で、動物の行動を解析する研究としては早期の取り組みでした。また、林業労働者の振動障害予防にも取り組みました。

高知県衛生研究所長になる

1991年に高知県衛生研究所の所長になりました。橋本大二郎さんが知事になる半年前です。研究所の意識改革を訴えたところ、所員に反発されました。労組から所長方針説明を求められ、県職労の中央執行委員も来て、午後2時から6時まで徹底議論したら意が通じました。受身の検査主体から、新しい技術を取り入れ、勉強し、学会にも発表を、と所員を励まし、国際学会発表も実現しました。

某団体の会議に反対して街宣車で来た団体が、ある企業を標的にして、研究所に水質検査を求め、対応した職員がそれを認めてしまうという出来事がありました。このときは、「県衛研は、個人の要求には応じられない。県の依頼により測るのが筋です。部下が受けたのは誤りで上司の私の責任です。」と頭を下げたら、相手も了承してくれました。

高知産業保健推進センター長になる

2001年に高知産業保健推進センターができ、初代センター長になりました。産業医研修会に力を入れ、東海からは宮尾克先生にVDT労働に関する講演をお願いしました。土佐打ち刃物や建設業など、小企業対策を進めました。70歳を機に退職しました。

産業医になる

2006年に、トヨタ自動車統括産業医の岩田全充先生から依頼されて、トヨタから分社化されてできたトヨタテクニカルディベロップメント社の専属産業医になりました。創成期には、安全衛生が未確立でしたが、社長が安全衛生スタッフと話すようになるなどして、よくなってきました。技術者主体の会社で、メンタルヘルスやパソコン作業などが課題でした。2011年に同社を退職しました。

外国旅行

昔から美術が好きで、近年は、外国旅行を沢山しています。2012年は4回、13年は3回、14年はインドのアジャンタ石窟とオランダやドイツの美術館などを訪れました。アムステルダム国立美術館で見たレンブラントの「夜警」には感銘を受けました。15年は、バレンシアの火祭りに見に行くことを予定しています。

若い人へ

労働衛生も含む社会医学研究は、曇りのない眼で事実を見て、実証的に真実をつかみ出すことが重要です。例えば、炭鉱爆発事故で一酸化炭素中毒後遺症、水俣病で有機水銀中毒の研究が進みましたが、詐病説が唱えられたり、見当違いの物質が原因とする説が現れたりしました。労働衛生学の課題は、社会的利害の絡むことも多く、しっかりした姿勢が大事だと思います。

今は、産学協同は、当たり前ですが、かつてはそうではありませんでした。1978年の松本での産衛学会のときには、総会でその是非が議論になりました。最近では研究者の利益相反(COI)開示の必要性がいられていますが、産と学の双方が節度を持って協力することは、私たち皆の課題だと思います。

私は、ある意味、成り行き任せで、欲を押し通すことのない人生を歩んできました。自分らしさを持ち、好きなことに取り組むのがよいと思います。小学生の時、教師が「鳥を観察した青年が飛べる気持ちになり、鳥のように飛ぼうとしたが、墜落して死んだ」という話をしました。こだわって熱中してやり、その結果、うまくゆかなくても、それでよしとする生き方もあるのではないのでしょうか。私はかなり凝り性で、美術番組を録画したDVDが3,000枚、ブルーレイディスクが1,000枚にもなっています。さてどうしようというところですが、徹底してやるのが私流です。

インタビューを終えて

鈴木先生の話の面白さに引き込まれて、インタビューは3時間に及んだ。ここに書くのは憚られるが、書きたくなる秘話も多かった。先生は、大学、県、労働者健康福祉機構、民間企業と立場を替えて仕事をされ、その間には時代の変化もあったが、基本姿勢は逆風が吹こうが全くぶれない生き方をしてこられたことが印象的であった。ややもすると時流になびきがちな私たちにとっては、絶えず思い起こさねばならないことだと感じた。

鈴木先生は、現在も産業医の任にある。今後もますますお元気に、私達をご指導くださることを祈念します。

(文責 久永直見、柴田英治)



大学教室の紹介

藤田保健衛生大学 医学部 公衆衛生学講座

当講座は八谷寛教授のもと、教員5名、大学院生(医学博士課程)3名、研究生2名とともに、公衆衛生学分野の教育・研究に取り組んでいます。

当講座の初代の故島正吾教授は職業性呼吸器疾患を主な研究分野とされました。ベリリウムの肺毒性については、島先生の研究成果が現在でも教科書的知見となっています。次代の小野雄一郎教授(現・藤田学園理事長)は作業関連筋骨格系障害を主な研究分野とされました。保育士・調理師を対象にした頸肩腕障害・腰痛の研究成果は、2013年に19年ぶりに改訂された職場における腰痛予防対策指針に反映されました。保育士・調理師の健康問題については現在も太田を中心に研究を継続し、職業性心理社会的ストレスが筋骨格系障害に及ぼす影響やその内分泌学的メカニズムの解明を目指しています。八谷教授は疫学を専門とし、産業衛生分野の研究としては、愛知県職員を対象とした追跡期間15年以上にもわたるコホート研究を構築しています。肥満や糖尿病等の生活習慣病の発症に関連する危険因子の分析と、科学的根拠に基づいた健康増進・疾病予防対策の発展に貢献することを目指しています。また内藤講師は動物モデルを用いた非アルコール性脂肪性肝疾患や有機溶剤など産業化学物質による肝毒性、柿崎講師はコホートデータを用いた生活習慣病の予防、李助教は生活習慣や血中バイオマーカーとメタボリックシンドローム・糖尿病発症との関連について研究を行っています。

医学部教育としては、医学科3年生を主たる対象として公衆衛生学の講義・実習を担当しています。衛生学講座(橋本修二教授)と協力して教育にあたっていますが、当講座は社会保障制度、医療提供制度、高齢者保健・医療・福祉、精神保健・福祉、産業衛生、学校保健、母子保健の教育を担当しています。学生にとっては制度や法律を丸暗記するだけの科目と思われるがちですが、その内容は時代や地域(国)によって大きく異なること、その時々々の社会状況に応じて常に検証と変化が必要なものであることを教育しています。つまり、職業や生活環境など人々を取り巻く社会的状況が健康障害の発生や進行に深く関係していることを具体的事例で示し、その予防のために公衆衛生の制度や法律が作成・改正されていることを理解してもらえよう努めています。産業衛生の事例としては、2012年に大阪の印刷工場で発覚した胆管がん多発事例や2013年にバングラデシュで起こったラナプラザ崩壊事故(9階建ての縫製工場ビルが倒壊し約1,200人の労働者が死亡)を取り上げ、労働者の安全と衛生を守る諸制度の重要性を考えてもらいました。さらに、色覚検査を取り上げ、健診と事後措置、雇入や配置、職場や学校での配慮について考える実習も実施しています。

地域や職域の現場で発生する問題の解決に少しでも役立つことができるような学問的貢献、人的交流・育成を進めていきたいと思えます。

(准教授・太田充彦)



(左上) 李助教

(後列左から) 皆川研究生(医療科学部准教授)、盛田研究生(医療科学部准教授)、加藤院生、藤澤院生、松永院生
(前列左から) 内藤講師、八谷教授、太田准教授、柿崎講師

受賞報告

中央労働災害防止協会の顕功賞を受賞して

名古屋大学 名誉教授 竹内 康浩



昨年10月22日、広島で開催された全国安全衛生大会で、中央労働災害防止協会の顕功賞を授与されました。私にとっては大変名誉なことであり、関係各位には心より感謝する次第です。私は1964年4月に名古屋大学

医学部衛生学教室に入り、労働衛生の勉強を始め、有機溶剤中毒を中心に研究に従事してきました。大学の研究では、国内外の職場の労働衛生的な調査研究や有機溶剤の毒性解明のための動物実験などを行ってきました。私の活動は大学での研究が主でしたが、愛知労働基準局の労働衛生指導医として、愛知県内の各種の職場を訪問し、JICAから労働衛生の仕事でブラジル、中国、韓国などに派遣され、いろいろの職場を訪問することができました。大学の定年退職後は企業の専属産業医を務める機会に恵まれ、産業医の経験の中で労働衛

生に関する研究の成果が、法令や行政指導や企業の安全衛生活動に結実していることを実感しました。私が労働衛生の研究に従事するようになった当初に比べて、その進歩は目を見張るものがあります。日本産業衛生学会や行政や企業などの労働衛生活動の成果と誇りに感じております。しかし、長時間労働、非正規労働、生活習慣病、労働者のメンタルヘルスなど、厳しい国際競争の中で労働条件や生活条件の悪化による労働衛生の課題は山積しており、労働者の健康保護増進のための研究と実践活動が一層の発展することが期待されています。私は昨年77歳になり、3月には6年間務めたトヨタテクニカルディベロップメント(TTDC(株))の産業医も定年退職しました。5月22日の日本産業衛生学会総会では名誉会員にいただきました。私にとっては人生の一つの区切りとしても、大変うれしい受賞でした。これまでの私の活動は皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げますとともに、東海地方会の益々のご発展を祈念いたします。

事務局から

平成27年度総会決議から

平成26年度事業報告

1. 総会を6月21日(土)に名古屋市で開催した。
2. 理事会を4回(6月21日、9月13日、12月6日、平成27年2月7日)開催した。
3. 平成26年度日本産業衛生学会東海地方会学会を開催した。
11月22日(土) 10:00~17:00
三重大学医学部総合医学教育棟(津市)
一般演題 16題
特別講演1「健康づくりのための睡眠指針2014: 職域での睡眠の質改善に向けて」
内山 真(日本大学医学部精神医学系 主任教授)
特別講演2「ストレスチェック義務化(改正安衛法): その課題と対策」
廣 尚典(産業医科大学産業生態科学研究所健康支援部門精神保健学 教授)
ミニシンポジウム『立場の相違を越えて産業衛生の

共通目標・インパクトを考える』

『事業所が産業医・産業看護職に望むこと』

佐久間 敦敬(住友電装株式会社 執行取締役)

『事業所の安全衛生担当者に望むこと』

浦上 年彦(トヨタ自動車株式会社本社 産業医・ゆうあいクリニック 院長)

参加者数: 132名(会員101名、非会員31名)

4. 平成26年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会を開催した。

6月21日(土) 13:10~17:20

中部大学名古屋キャンパス(名古屋市)

講演「職場ストレス研究に関する国内外の話題」

小林 章雄(愛知医科大学衛生学講座 教授)

シンポジウム『職場メンタルヘルス支援における役割と活動の実際』

『メンタルヘルス対策支援の立場から』

吉田 有里(愛知産業保健総合支援センター)

『産業医の立場から』

斉藤 政彦(大同特殊鋼(株) 産業医)

『産業看護職の立場から』

高崎 正子 (㈱東芝セミコンダクター&ストレージ
社四日市工場 産業保健師)

「精神科医の立場から」

舟橋 利彦 (仁大病院 理事長・精神科医)

参加者数：127名

5. 地方会四部会による活動が以下のように実施された。

・産業医部会

第9回産業医部会懇話会12月20日(土)

中部大学名古屋キャンパス(名古屋市)

テーマ：『がん患者の就労支援』

講演1「がん患者の就労支援・臨床医の立場から」

河田健司(藤田保健衛生大学病院臨床腫瘍科
教授)

講演2「働くがん患者のQOLを高める……産業医
の立場から」

田中 完(新日鐵住金(株)名古屋製鉄所 産業医)

参加者数：58名

・産業看護部会

理事懇談会8月9日(出席者：7名)、10月18日
(出席者：11名)、1月31日

産業看護部会研修会11月15日(土)

中部大学名古屋キャンパス(名古屋市)

テーマ：産業看護職の未来像

～新専門職制度とこれからの産業看護職に
求められるもの～

「新産業看護職専門制度について」

「これからの産業看護職に求められるもの」

巽あさみ(浜松医科大学)

参加者数：55名

・産業衛生技術部会

東海産業衛生技術部会第6回特別企画

特別シンポジウム 12月6日(土)

中部大学名古屋キャンパス(名古屋市)

シンポのねらい 那須 民江(中部大学)

講演1「改正労働安全衛生法と化学物質のリスク
管理」

飛鳥 滋(公益社団法人 日本作業環境測定協会)

講演2「大企業における化学物質管理」

菅沼 要一郎(浜松ホトニクス株式会社)

講演3「特化則改正による現場の化学物質管理と
その対応

～コバルト法令改正に伴う、現場(弊社)
の取り組みの事例紹介～

晋山 和之(株式会社スズキ部品製造スズキ精
密工場)

参加者数：28名

・産業歯科部会

産業歯科部会研修会11月20日(木)

東レ・モノフィラメント本社工場(岡崎市)

参加者数：18名

6. 第27回産業保健スタッフのための研修会を開催
した。

平成27年1月31日(土) 10:00~17:00

名古屋市立大学(名古屋市)

講演Ⅰ「ストレスチェックの進め方について」

中元 健吾(日本ガイシ株式会社)

講演Ⅱ「EMDRを用いたトラウマ治療」

吉川 久史(浜松医科大学児童青年期精神医学
講座)

講演Ⅲ「個人ばく露測定の進めかたー産業衛生技
術部会によるガイドライン」

橋本 晴男(東燃ゼネラル石油株式会社)

講演Ⅳ「生活習慣と口腔がん」

長尾 徹(岡崎市民病院歯科口腔外科)

シンポジウム『大人の発達障害の支援』

「大人の発達障害を取り巻く課題と支援の方法」

大高 一則(大高クリニック)

「就労支援からみた発達障害者の支援の現状」

角谷 勝巳(社会福祉法人 名古屋市総合リハ
ビリテーション事業団 障害者就
労支援センターめいりは)

「企業からみた発達障害者支援の現状」

杉本 日出子(株式会社 ジェイテクト)

参加者数：68名(会員：40名、非会員：28名)

7. 地方会内の研究会活動を以下のように実施した。

・職場ストレス研究会

第86回職場ストレス研究会 9月10日(水)

WINCあいち(名古屋市)

テーマ：「成人期の発達障害の理解を深めるために」

大嶋 正浩(メンタルクリニック ダダ)

参加者数：52名

・振動障害研究会

第28回振動障害研究会 2月14日(土)

名古屋大学医学部保健学科(名古屋市)

「自動車整備工場での振動障害健診(問診票を用い
たスクリーニング法の経験)」

樋端 規邦(健生石井クリニック 所長)

「エアーツールにおける振動低減法の開発」

渡部 幸雄(アピュアン株式会社 代表)

「振動障害要因低減に向けた工具メーカーの取り組
み例」

蜂須賀 智弘(株式会社マキタ 技術研究部)

参加者数：35名

・学術連携研究会

学術連携研究会世話人会6月21日(土)

(出席者数:13名)

8. 地方会代議員・地方会会長選挙ならびに本部理事候補者選挙を実施し、新役員・役員候補を選出した。
9. 地方会ニュースを2回発行した。
第82号(7月24日)、第83号(平成27年1月1日)
10. 事務局の管理でUMINに設置したホームページを運営し、地方会関連行事や理事会の案内などを行った。(http://tosh-net.umin.jp/)

地方会理事会**平成26年度 第4回理事会**

日 時:平成27年2月7日(土) 10:00-12:00

場 所:中部大学名古屋キャンパス

(6階・610講義室)

【議題】

- I. 前回理事会議事録(案)の確認
- II. 報告事項
 - 1) 本部理事会 2) 地方会事務局報告事項(会員状況) 3) 平成26年度地方会学会開催報告 4) 部会・研究会 5) 愛知県医師会産業保健部会 6) 地方会ニュース 7) 第27回産業保健スタッフのための研修会開催報告 8) 平成27年度総会ならびに研修会準備状況 9) 地方会活動改革委員会 10) 関連学会 11) その他
- III. 協議事項
 - 1) 平成26年度地方会会計報告(案) 2) その他

平成27年度 第1回理事会

日 時:平成27年6月13日(土) 10:00-12:00

場 所:じばさん三重(5階・研修室5)

【議題】

- I. 前回理事会議事録(案)の確認
- II. 協議事項
 - 1) 平成26年度地方会会計報告(案)、事業報告(案) 2) 平成27年度地方会事業計画(案) 3) 会長推薦理事の提案 4) 部会規定の改正について 5) 平成27年度地方会執行体制の提案 6) 地方会活動改革について 7) その他
- III. 報告事項
 - 1) 本部理事会 2) 地方会事務局報告事項(会員状況) 3) 部会・研究会 4) 愛知県医師会産業保健部会 5) 地方会ニュース 6) 平成27年度総会ならびに研修会 7) 平成27年度地方会学会準備状況 8) 関連学会 9) その他

会員の異動**【新入・再入会員】****愛知**

- ①笠原幸恵(藤田保健衛生大学看護専門学校) ②大坪俊雄(豊田西病院) ③中島英太郎(中部ろうさい病院) ④赤川景子(豊橋鉄道株) ⑤伊藤文華(アイシン高丘株) ⑥服部正典(名鉄病院) ⑦溝口尚美(三菱重工業株) ⑧前川敬子(田中会西尾病院) ⑨後藤謙和(東海北陸厚生局) ⑩浜田静江(住友理工株) ⑪加藤サラ(豊田合成株井之口診療所) ⑫沖野孝俊(日本予防医学協会 東海事業部) ⑬山瀬ちさと(住友理工株) ⑭横山絵美(名古屋銀行) ⑮早稻田ひとみ(株NTTドコモ東海支社) ⑯森川恵(株名古屋三越星ヶ丘店) ⑰鳥居啓三(株豊田自動織機) ⑱鈴木真弓(三菱レイヨン株豊橋事業所) ⑲山田悦子 ⑳横井圭介(名古屋第二赤十字病院) ㉑湯浅記久子(シャイニングライフ) ㉒水越真代(シャイニングライフ) ㉓藤村美里(ブラザー工業株) ㉔水越萌(トヨタ自動車株)

岐阜

- ①田中耕(中部学院大学) ②析本千鶴(中京学院大学) ③村上由季(岐阜健康管理センター)

三重

- ①松月正樹(三重大学大学院医学系研究科) ②山崎亨(三重大学医学部付属病院疫学センター) ③山路亜有美(株トーエネックサービス) ④井上好野(住友電装株鈴鹿製作所) ⑤小澤桃子(住友電装株鈴鹿製作所) ⑥藤原陽子(パナソニック株エコソリューションズ社) ⑦松木理恵(株東芝セミコンダクター&ストレージ社四日市工場)

静岡

- ①飯尾素代(社会福祉法人 聖隷福祉事業団) ②葛西英二(浜北さくら台病院) ③平野祐子(東海旅客鉄道株) ④内野保都美(ホトニクス・グループ健康保険組合) ⑤三宅綾子(社会福祉法人 聖隷福祉事業団) ⑥稲葉未来(旭化成株富士支社) ⑦鳥羽山滋生(聖隷福祉事業団保健事業部) ⑧無漏田芳野(ヤマハ健康管理センター) ⑨田淵翔大(東海旅客鉄道株) ⑩竹下浩(矢崎部品株ものづくりセンター) ⑪坂井寛毅(ヤマハ発動機株) ⑫望月友美子(静岡県立大学) ⑬勝又真澄(ウシオ電機株御殿場事業所) ⑭溝尻佳奈子(スズキ株)

【転入会員】

愛知

- ①小田健一（小田醫院）関東より ②高畑真司（東海旅客鉄道株）九州より ③川角美佳（ブラザー工業株）九州より

岐阜

- ①佐藤真奈 関西より ②西村梢（岐阜女子大学）関西より

三重

- ①工藤安史（四日市看護医療大学）関東より

静岡

- ①末満達憲

【退会会員】

愛知

- ①鶴田義幸（名古屋大学医学部付属病院精神科）②眞鍋由佳（トヨタテクニカルディベロップメント株）③寺平良治（藤田保健衛生大学医療科学部）④小川則子（東邦ガス株）⑤坂田孝雄（トヨタ自動車株）⑥常杰（名古屋大学大学院医学系研究科）⑦坂井令子⑧高野匠巳※（中部大学大学院応用生物科学研究科）⑨和田昭彦（日進おりど病院）⑩九里孝義（日本ガイシ株）⑪宗宮千恵子（富士通エフ・アイ・ピー株）⑫竹岡麻衣（株NTTドコモ東海支社）⑬中出泰充（なかいで内科）⑭加納真由美（NTT西日本東海健康管理センタ）⑮稲垣義範（社瀬戸健康管理センター）⑯佐藤理之（さとう歯科医院）⑰山本敬子⑱上田ゆみ子（中部大学）⑲村山尚子（村山内科医院）⑳山内規代美（三井化学株）㉑SHEIK MOHIDEEN SAHABUDEEN（国立長寿医療研究センター）㉒神取祥和（産業医学研究所）㉓中村文彦（愛知学院大学歯学部）㉔加藤定江（瀬戸ファミリア歯科医院）

岐阜

- ①新井康友（中部学院大学）②小栗麻貴（岐阜県イベント・スポーツ振興事業団）③石川貴之（石川内科クリニック）

三重

- ①松月正樹※（三重大学大学院医学系研究科）②佐藤光年（四日市看護医療大学）③山崎正人（四日市看護医療大学）④広瀬沙織（株近鉄百貨店）⑤吉田祐子（住友電装株）

静岡

- ①大野正師（佐鳴台整形外科）②鈴木志津江（浜名湖電装株）③池野智子（トラック運送健康保険組合）④竹下明裕（日本たばこ産業株）⑤吉水京子（聖隷予防検診センター）⑥宮本みゆき（トッパングループ健康保険組合）⑦杉山英子（静岡県産業労働福祉協会）⑧望月友美子※（静岡県立大学大学院看護学研究科）⑨上村隆元（上村内科）⑩渡邊真理（ジヤトコ株）⑪大城祐子（静岡県立大学大学院）⑫谷伊織（浜松医科大学）⑬菊池裕子（西焼津駅前クリニック健診センター）⑭石塚泰世（静岡大学）⑮吉田勝也（トヨタ自動車東日本株）⑯松本磨須美（浜松ホトニクス株）⑰丸山薫（御殿場テトラパック合同会社）⑱内野隆平（株巴川製紙所診療所）⑲足立安正（ジヤトコ株）⑳田中美香（聖隷予防検診センター）㉑村上江利香（聖隷予防検診センター）㉒小山奈緒美（聖隷福祉事業団保健事業部）㉓円谷由子（静岡県立大学食品栄養科学部）㉔鈴木雅子（聖隷予防検診センター）

※は学生会員

【地方会内異動】

- ①浅間信治（パナソニック株エコソリューションズ社）②笹敏③谷野恭子（静岡大学 保険センター）④村本淳子⑤平田哲夫（岐阜ハートセンター）⑥加藤由佳（株アドバンテッジリスクマネジメント）

【転出会員】

- ①田中完（新日鐵住金株）関東へ②鏡味浩彦（日清紡メカトロニクス株）関西へ③末満達憲 関東へ④垣内博成（株リコー）関東へ⑤斉尾武郎（フジ虎ノ門健康増進センター）関東へ⑥伊藤直人（JR東海 静岡健康管理センター）九州へ⑦横島啓子（順天堂大学保健看護学部）近畿へ⑧西村綾香（近畿へ）⑨阿部桂大（近畿へ）

【退会名誉会員】

- ①井上俊

開催報告（既出以外）

平成27年度総会ならびに研修会

日 時：平成27年6月13日（土）13:00～17:00

場 所：じばさん三重（三重北勢地域地場産業振興センター） 5階大研修室

内 容：東海地方会総会

研修会テーマ：『生活習慣への新しいアプローチ』

講演Ⅰ：禁煙で職場の大切な命を守る

三浦秀史（禁煙マラソン/日本禁煙科学会）

講演Ⅱ：禁煙が導く職場の健康

高橋裕子（奈良女子大学/京都大学付属病院）

講演Ⅲ：職域における「アルコール関連疾患」への介入方法

猪野亜朗（かすみがうらクリニック）

参加者数：112名

これからの行事予定

平成27年度地方会学会

日時：平成27年11月14日(土)

場所：名古屋大学医学部 基礎棟 第1、2、4講義室
プログラム

午前：演題発表

午後：特別講演 堤 明純

「職場におけるメンタルヘルス対策」

シンポジウム

「職場でのメンタル対策の取り組み」

企業主の立場から

根岸茂登美(藤沢タクシー(株)社長)

産業医の立場から

石川 浩二(三菱重工・産業医)

産業保健師の立場から

川崎ゆりか(日本車両・保健師)

産業歯科部会 第10回研修会

日時：11月15日(日) 10時～12時 総会・講演

講師：矢崎 武(労働衛生コンサルタント)

演題(仮)：「衛生学(産業保健)の基本」

場所：名古屋ガーデンパレス

名古屋市中区錦3-11-13

第25回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会

日程：平成27年9月16日(水)～19日(土)

会場：周南市文化会館(山口県周南市)

第43回産業中毒・生物学的モニタリング研究会

日程：平成27年10月2日(金)午後～3日(土)午前

会場：まるは食堂旅館 南知多 豊浜本店

産業疲労研究会第83回定例研究会

日程：平成27年10月3日(土) 13:00～17:00

会場：中部大学名古屋キャンパス 610教室

第74回日本公衆衛生学会

日程：平成27年11月4日(水)～6日(金)

会場：長崎ブリックホール(長崎県長崎市)



訃報

青木智先生(聖隷健康診断センター)

平成27年1月4日ご逝去

由利卓也先生((医)社団卓和会 しらゆりクリニック)

平成27年1月22日ご逝去

伊藤光保先生(内科 伊藤医院)

平成27年2月1日ご逝去

上記 会員のご逝去を悼み心からお悔やみ申し上げます

編集後記

第80号から本ニュースの編集委員長を担当し、編集委員、多くの会員の皆様のご理解、ご協力の上、無事運営することができました。今さらで恐縮ですが、ありがとうございました。このたび、地方会の産業医部会長に任命されたことに伴い、西谷先生に後任をお願いすることになりました。約2年間という短い間でしたので、志半ばでやり残したこと、反省すべきことなど山積みですが、そこは西谷先生の采配に期待したいと思います。また地方会の今後の発展に少しでも寄与できるよう、頑張りたいと思いますので今後もよろしくお願いいたします。

三菱重工業 石川 浩二

東海地方会ニュース

編集委員長：石川 浩二(三菱重工業)

副編集委員長：西谷 直子(椋山女学園大学)

編集委員：池田友紀子(キヤノン)

榎原 毅(名古屋市立大学)

河南 文子(富士電機)

後藤 由紀(四日市看護医療大学)

城 憲秀(中部大学)

守田 祐作(新日鐵住金)

山本 誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
愛知医科大学医学部衛生学講座内

TEL:(0561)62-3580 FAX:(0561)62-3580

E-mail: aratokai@aichi-med-u.ac.jp

印刷・製本

富士ゼロックスサービスリンク株式会社

TEL:(052)412-5251 FAX:(052)412-1440